

第19号
2007.3

あきた 留学生交流



外国人留学生と地域住民による街おこし企画ワークショップに参加した留学生、日本人学生、大仙・仙北市民、チューターのみなさん

秋田地域留学生等交流推進会議
Akita Inter-regional Council for Promotion of Foreign Student Exchange

あきた 留学生交流

第19号
2007.3

表紙題字
秋田大学教育文化学部
長 沼 雅 彦 教授

C O N T E N T S

1 巻頭言

秋田魁新報社代表取締役社長 佐藤暢男

2 秋田経済法科大学 平成19年4月から ノースアジア大学へ!

留学生からのメッセージ

4 日本での研究生活

秋田県立大学大学院博士後期課程1年
裴 泰 羽 (韓国)

5 ここでの一人暮らし

国際教養大学留学生
黎 碧影 (マカオ)

6 私の過ごした留学生活

秋田工業高等専門学校機械工学科5年生
ザルル ファイジビン モハマド シャザリ (マレーシア)

7 留学の辛いこと楽しいこと

秋田大学工学資源学部材料工学科2年
ヌル シャイラ ビンティ モハマド (マレーシア)

8 人情味あふれる日本・秋田

秋田大学日本語研究生
崔 慶 梅 (中国)

卒業生から励ましの声

9 秋田大学職員に採用されて 感じたこと

秋田大学医学部助手
殷 敏 (中国)

国際交流団体等の活動紹介

10 スピーチ・コンテストがもたらすもの

秋田ユネスコ協会

11 あきたのファミリー

秋田県国際交流協会

12 秋田県日中友好協会女性委員会年間行事

秋田県日中友好協会女性委員会

13 ホームステイで留学生と交流 協会の行事にも全員招待

秋田モンゴル友好協会

14 留学生交流事業の紹介

秋田大学

16 秋田地域留学生等交流事業

秋田地域留学生等交流推進会議

17 平成18年度国際交流事業の実施状況

20 平成18年度秋田地域留学生等交流推進会議

議事要旨
運営委員会議事要旨

22 「資格外活動」(アルバイト)の許可申請方法 と必要書類について

23 留学生関係資料

秋田県内留学生等の受入れの推移 (各年10月1日現在)
住居形態別留学生数 (平成18年10月1日現在)
秋田県内留学生等の出身国・地域別在籍状況 (平成18年10月1日現在)
日本全体の留学生数の推移 (各年5月1日現在)
出身国(地域)別留学生数 (平成18年5月1日現在)
地方別・都道府県別留学生数 (平成18年5月1日現在)

27 秋田地域留学生等交流推進会議要項

秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会要項

28 秋田地域留学生等交流推進会議構成員名簿

秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員名簿

29 推進会議へのご意見・ご感想の募集について 編集後記

巻頭言



秋田魁新報社代表取締役社長

佐藤 暢 男

前年の記録的な豪雪とは一転、2007年は雪のない正月を迎えた。いったいどちらが本当の秋田の冬なのか、留学生のみなさんは戸惑いを覚えたかもしれない。白く美しい雪も、時に生活を脅かす。日々の暮らしにとってはありがたい暖冬ではあったが、秋田の雪景色に浸れずに幾分かっかりした留学生も少なくないのではなかろうか。

ともあれ、若葉が芽吹き、桜がほころぶ春はやはり待ち遠しい。若い一時期を秋田で過ごすみなさんにこそ、四季の移り変わりを肌で感じ、折々の風景を心に留めてほしい。

秋田魁新報では昨年6月から月1回、県内の大学・短大・高専の学生が取材、制作した「キャンパス発信」を掲載している。国際教養大学の紙面はさすがに国際色豊かだった。ほかにも秋田経済法科大学の韓国人留学生へのインタビュー、聖霊女子短期大学のフィリピン研修など、留学生や国際交流にまつわる記事が紙面を飾っていた。「キャンパス発信」を眺めただけでも国際化が身近に感じられる。なるほど、秋田県内の留学生は5年連続で増えており、去年は過去最多の210人になった。

地方に暮らしていると、華やかで便利な都会

につい目を奪われ、うらやましく思うこともあるだろう。しかし、海の向こうからこうして秋田へ学びに来る若者たちが増えているのは、私たちにとって大変頼もしく、誇らしいことだ。

美しい雪も、とかく厄介者扱いされるように、日々の忙しさに紛れて身近にあるものの良さはつい見過ごしがちだ。留学生のみなさんの目に、果たしていまの秋田はどう映っているだろう。

みなさんが気付いた秋田の魅力を、ぜひ私たちに教えてほしい。それは、縁あって秋田で学んだみなさんと、この地を故郷とする私たちとが共有する、かけがえのない財産なのだから。



秋田経済法科大学 平成19年4月から ノースアジア大学へ！



写真1

この交流事業の紹介記事は秋田経済法科大学の事業紹介であると思いますが、法人全体で国際交流事業を捉えさせていただくならば、なんと言っても附属高校の「中国研修の船」（1981年に開始）は20年以上も継続し、賞賛に値する事業として紹介しておきたいと思います。（写真1）

さて、本年度（2006年）に大学で行った三つの国際事業についてご報告したいと思います。第一の事業は、2005年11月に学術交流協定

を締結した台湾・真理大学から理事長先生以下総勢7名の先生方が、表敬と学術会議参加を目的に本学を訪れました。（写真2、3、4）来秋された先生方は、学術上の成果のみならず初めて訪問した秋田県のすばらしさに強く印象をお持ちになりました。この機会を通し両校間の交流を益々盛んにする励みとなりました。

国際事業のその二は、北京外国語大学との学術交流協定の締結であります。（写真5、6、7）皆様もご存じのことと思いますが、北京外国大



2



4



3



5

学は中国の外交、対外貿易、対外文化交流、外交事務の人材を育成するトップの外国語大学であります。日本のいくつかの大学と協定を結んでいます。本学とは、橋元春男本学名誉教授（現在北京外国大学の客員教授）の推薦で実現しました。協定の目的は、教員や学生の交流、共同研究や学術的な情報の相互提供などですが、特に2008年度開校を予定している観光学科学生の研修校として交流を深めていきたいと思っています。

国際事業のその三は、韓国慶熙大学からの留学生についてです。慶熙大学との交流は1990年に当時の学長大淵利男先生が提携を成し遂げて以来毎年2名程度の学生が本学に留学し、多くの科目と日本文化を学習し巣立って行きました。2006年度は、日本語学科の学生2名経済学部にて在学しました。専門科目のみならず様々な行事やゼミ旅行などに参加し貴重な留学経験を積みました。（写真8、9、10）

最後に、本学と海外の大学との交流は、県内の他大学と比較するとまだまだ不活発でありま

す。しかし、大学が永遠に教育・学問の場を維持するために、また日本の教育が世界を舞台に張り合っていくために、海外への留学、海外からの学生受け入れはその使命であり、不可欠なことであると思います。本学の名称変更や留学生専科の設置（平成19年開校）は、その観点で地域の大学から世界の大学に飛躍することを不退転の決意を持って実行することを表明したものであります。本学の改革に向けて皆様のご理解とご指導のほどよろしくお願い致します。（秋田経済法科大学国際交流センター長 阿部時男）



8



6



9



7



10



日本での研究生活

秋田県立大学大学院博士後期課程1年

裴 泰 羽 (韓国)

おとし、韓国の私の大学と秋田県立大学の交換留学制度を利用し、日本で一年間勉強しました。私は、韓国の大学でメカトロニクスを専攻しており、日本ではロボット工学研究室に配属されました。そこでの経験から、まだ韓国より日本の方が高い技術を持っていると感じました。そこで、私は日本で学べるチャンスがあれば、是非日本の高い技術を習得し、最先端の研究にも取り組みたいと思うようになりました。

その思いがけない、現在秋田県立大学のロボット工学研究室で最先端の研究に取り組んでいます。私は指導教官の下、新しいセンサの開発に取り組んでいます。4軸方向接触力と接触位置角度の計測が可能な柔軟接触センサの開発です。現在は、柔軟接触部の変形量をリアルタイムで算出する方法を研究しており、このセンサは様々な場面で活用されることが期待されています。

始めは、専門的な言語の問題や研究の取り組み方に戸惑いを感じました。しかし、徐々に慣れていき、今では研究がとても面白くなりました。周りの学生より何倍も努力する必要がありますが、今後も努力していきます。

この大学院での研究生活を生き、将来は、韓国と日本に貢献できる人材として活躍したいと考えています。韓国は今、急成長しています。韓国と日本の技術者が共同で研究開発を行う際、私は大いに活躍できると考えます。日本だけでは出来ないことも多くあると思います。韓国と日本が互いに協力し、全世界の人が幸福に暮らせるよう貢献していきたいです。





ここでの一人暮らし

国際教養大学留学生

黎 碧影 (マカオ)

ここAIUに来たのは去年の八月の終わりのことだ。飛行機の中から見ると、田んぼと樹しか見えなくて、少しびっくりした。不便とは言えないが、東京のような都市とかなり違うと聞いていたし、何でもすぐに手に入る賑やかなマカオに住んでいた私は、周りに何も無いAIUではどんな生活ができるのだろうと思って、心配したことがある。

やがて、私はこの環境に適応して、好きになった。町の中心部とかショッピングセンターとかを離れた、静かだが、住みやすく、いいところだと思う。かつての私は、朝寝だったし、勉強の仕方もちゃんと考えなかったし、たくさん時間を無駄にしてしまった。でも、ここに来てから、朝早く起きて、朝ご飯をちゃんと食べるようになった。その上、せっかく日本に来たから、どうやってここにいる一年間を過ごすとか、効率的な勉強の仕方とか、豊かな経験を得るための方法とか、考え始めた。勉強のほかにホームステイをしたり、秋田名物のきりたんぼを作ったり、日本の伝統的な楽器の演奏を見たりして、日本でしかできない色々な体験をした。これからも、日本にいる時しかできないことを一生懸命やって、頑張りたいと思っている。

でも、一番深く感じたことは、ここでの一人暮らしだ。昔も両親の仕事でよく一人で家にいたが、そんなに長く友達や家族と離れることはなく、いつも簡単に会うことができた。会えなかったら、電話やインターネットを使えば連絡を

取ることはできるのだが、目の前で直接会うこととは全く違う。辛いとき、最初に思い出すのは家族だ。前はこんなに深く想わなかった。それで、独立した生活はこれからだという気がしてきた。

それでも、困ることがあると、皆に助けをもらえて、とてもありがたい。ここに来て本当に良かったと、いつも思っている。これからもできるだけ自分のできることをやって、頑張ろうと思う。





私の過ごした留学生活

秋田工業高等専門学校機械工学科5年生

ザルル ファイジビン モハマド シャザリ (マレーシア)

秋田高専に編入して以来、はじめのうちは毎日あれこれと心配しながらのスタートでした。しかし、気づいてみると3年が経過し、その間、さまざまな問題や悩みにもぶつかりましたが、それらを克服し、大体日々順調に大きな問題もなく過ごすことができよかったです。これは、ひとえに、先生方、そして多くの友達の暖かいご支援のおかげと深く感謝しています。先生方は勉強に限らず、生活にも関心を寄せてくれました。日本語は日本人の友達から学んだのが大半だと言えるでしょう。

私は秋田に来た頃、知り合いが誰もいなく、秋田のこともぜんぜん分からなくて大変でしたが、秋田での生活も慣れてきて、多くの友達を作りながら、国際交流をして、秋田に留学していることを楽しむようになり、また日本をはじめ、秋田の文化を学びました。春に日本の桜という花見を知り、夏に花火や秋田の竿燈まつりを知り、秋には美しい紅葉、そして冬に寒さを感じない美しい雪を体験しました。秋田には三つの特徴があることが分かりました。秋田に来る前に東京で先生に秋田美人、秋田米、そして水と空気が綺麗だと紹介されました。この三つのことを秋田に来て確かめることができ、本当だと思いました。秋田美人は見た目だけではなく、親切で心も美しいです。あきたこまちは他の日本米と違っておいしいです。そして、秋田はとても静かで美しい場所であり、生活するにも勉強するにもふさわしい環境に恵まれています。

この3年間はずっと寮に住んでいて良かったです。教室は部屋から歩いて約5分かかからなかったため、いつも楽な気持ちで学校に行くことができました。しかし、寮には規則があり、一番大変なルールを守るのは朝点呼でした。慣れてくるとそんなに大きな問題ではなかったのですが、時には嫌になったこともありました。それから、留学してから食事を自分で作るようになり、最初は大変でしたが、今では得意の分野になりました。そして、奨学金をいただいて生活をしているので、お金を大切にするという気持ちが今まで以上に強くなりました。更に、学寮では、『同じ屋根の下に寝る』大勢の仲間と共に日々努力して自分を磨きながら日本の文化や考え方などを把握することができ、礼儀正しく、何事にも一生懸命頑張るなどの良い習慣に影響を受け、私も自分の生活の仕方を学ぶことができたと思います。これからも更にたくましく成長し、社会にもっと役に立てるように努力したいと思っています。

私は今まで日本で過ごした4年間において、良いこともあり、困難のときもありましたが、経験したこと全て、特に秋田で留学生活を送ったことは決して忘れられず、きっと将来、年をとった時に良い思い出に思えるでしょう。



留学の辛いこと楽しいこと

秋田大学工学資源学部材料工学科2年

ヌル シャイラ ビンティ モハマド (マレーシア)

私は子供の頃から留学という希望を持っていた。その希望を実現するために、中学校から一生懸命に勉強した。高校の試験の結果で、私は奨学金をもらって、日本に留学することになった。そして、秋田大学に入る。文部科学省試験に受かったとき、嬉しかった。やっと私の夢が実現した。これから大変なことになるという心配がある。しかし、自分が乗り越えると思う。

入学式の時、私は隣の人に声をかけた。しかし、話がうまくできなくて、結局ずっと黙っていた。ここからは不安になってしまった。「私は友達作れるかなっ」という不安が出てきた。しかも、イギリスやアメリカに留学している友達の話によるとなかなか友達ができなくて一人になった。オリエンテーションの日に女性の方に声をかけて、いろいろ話し合ったのがきっかけで、仲良くなった。今まで友達のおかげで日本での生活は楽しくなった。もし、友達ができないと私の大学の生活はどうなるのかを全然想像ができなかった。私の二番の不安はもちろん試験のことである。なぜならば、字と言葉は自分の国と全然違うからである。教科書を読む時、わからない言葉と漢字がたくさんあり、大変困っている。講義を受けるとき、先生の話もあまり聞き取れなかった。試験のために、特に暗記問題は必死で覚えなければならない。時々私は問題の意味がわからなくて全然違うことを書いてしまった。試験のために他の日本人の友達より一生懸命に勉強せざるを得ない。学年を上がると勉強することは難しくなってきたので頑張らなければならない。幸いにもやさしい友達が

いて、いつも教えてくれたり励ましてくれたりするので頑張っていきたいと思う。

そして、日本にいる間もちろん一人暮らししている。国にいるとき、寮に住んでいても電気代や水道料などは考えなくてもいい。さらに料理もしない。日本に来てから全部自分でやらなければならない。辛くても私は自立できるようになった。

留学しているうちに、辛いことだけではない。実際には楽しいことは辛いことよりたくさんある。日本の文化を知ることができるので楽しいと思う。毎年春になると花見をしたり、大潟村の菜の花やチューリップの花を見に行ったりするので非常に楽しい。夏になると海にピクニックをしたり、浴衣で竿燈祭りに行ったり、花火大会を見に行ったりする。冬はスノーボードをしに行く。自国は季節がないので日本の四季を楽しみにしている。いろいろな楽しいことが待っているので各季節を期待している。更に私は旅行することが好きなので、休みになったら必ず旅行しに行く。一番大好きなところは東京ディズニーランドとディズニーシーである。九州、北海道と関東まで行った。次は関西辺りと沖縄に行きたいので頑張ってお金を貯めている。また、私の日本人の友達がマレーシアの料理を食べてくれたりしたのでうれしいと思う。

私は留学することのおかげで気づいたことはたくさんある。私は昔のようにあまえがなくなりだんだん強くなった。もちろん時々ホームシックや諦める気持ちもあったが、友達がささえてくれるので乗り越えるようになってきた。



人情味あふれる日本・秋田

秋田大学日本語研究生

崔慶梅 (中国)

あっという間に2007年になり、秋田に来てもう4ヶ月目です。短い3ヶ月でしたが、私にとっては楽しくて、嬉しくて、そして豊かな毎日でした。秋田の皆様と学校の先生の方々のおかげで、楽しい日々を過ごせました。

私は去年の7月に大学を卒業し、10月に中国・大連から秋田に来ました。中学校の時から日本語を勉強し始め、高校まで外国語として学校で日本語の勉強をしました。その時は日本の文字と文法だけに触れ、日本の文化などについてはあまり知りませんでした。日本語の勉強を通して、だんだん日本に興味を持つようになり、語学の勉強にも興味を持つようになって、大学の専攻を日本語にしました。

大学での勉強は私の日本に対する視野を広げ、日本語だけでなく、日本の歴史、経済、文化などの日本社会も知るようになりました。そして日本の独特な文化に惹かれました。その時からずっと日本へ留学に行く夢を持つようになり、去年の10月にやっと日本の国土を踏むことになりました。

たまにはホームシックになったり、国の友達に会いたかったりしますが、本当に日本に来て、秋田に来てよかったと思います。日本での日々が私の生涯の宝物になると思います。

優しくて親切な学校の先生、素敵な笑顔で迎えてくれるお店の店員さん、いつも親切に道を教えてくれる地元の人たち。本当に皆様のおかげで、心配することなく毎日を楽しみました。ゆったり勉強できる、そして生活できる素敵な

国、素敵な町です。

私の将来の夢は日本語の先生になることです。自分が日本で感じたことをすべて学生に伝えたいです。彼らにも日本が好きになって、日本にきてもらって欲しいです。日本人の方々にもぜひ中国へ行ってみたいです。自分の目で、そして身体で相手国を実感し、お互い好きになって、中日の友好交流が長々と続くことを願っています。





秋田大学職員に採用されて 感じたこと

秋田大学医学部助手

殷 敏 (中国)

私が秋田に来てから、早や5年の月日が経とうとしています。2002年4月、私は、秋田大学医学部附属病院耳鼻咽喉科に博士課程取得の目的で来日しました。当初、卒業と同時に帰国し、母校の南京医科大学に帰るつもりでしたが、もう少し日本の医療現場で学びたいと思い、在日延期を決意しました。石川教授の心温かい応援のおかげで、大学助手を担当させていただくことになり、現在に至っております。

私が大学病院に一番大きいと感じることは、仕事に対する時間の感覚が全然違うということです。中国にいた時、タイムテーブルが決まっております、夜勤・残業などはありますが、その分の休みも取れます。秋田に来ましたら、先生方が毎日朝から深夜にかけて医療と研究などをされている様子を見まして、正直驚きました。大学病院の先生方の仕事に対する熱い思いに心を打たれました。助手になりましたら、更にこの責任感を理解できました。私もよい業績を出せますように努力したいと思っております。

私自身は、現在、教授のご指導の下、めまいと歩行の研究、卒業論文のテーマでもあった睡眠時無呼吸についての研究を行っております。臨床においては、教授外来と手術の助手もさせていただいております。神経耳科学的マイクロ手術から、頭頸部腫瘍の手術にわたって、たいへん見事なもので、とても勉強になります。また、めまいについても、秋田大学に来て多くのことを学ぶことができました。今まで自分のやっていなかった領域を勉強できたことは大きな収穫です。

今、日本にいらっしゃる留学生の数も年々増えてきていることと思いますが、みなさんは卒業後どのような進路を考えていらっしゃいますか。私は、日本で就職することは、最初考えてもいなかったのですが、結局こうして大学にお世話になることになりました。昔とは全然違う環境で、全く苦勞がないと言えば嘘になりますが、こうして働かせていただいていること、そして、私を支えてくださっている方々にとっても感謝しています。みなさんも、母国に帰国されるにしても、日本国内に就職されるにしても、どうぞ自国とは異文化にある今の日本の留学生活を楽しんで経験してください。

国際交流団体等の活動紹介

スピーチ・コンテストがもたらすもの

秋田ユネスコ協会

秋田ユネスコ協会が主催している「日本語によるスピーチ・コンテスト」は、2006年で18回目を迎えた。

コンテストになる3、4年ほど前までは、外国人の意見発表ということでテーマを決めず、自由に発表させていたが、今は同じテーマでコンテスト形式をとっている。

I部によるスピーチ・コンテストでは、秋田に住む外国人が、日ごろ習得した日本語で、自分の意見を発表することによって、日本語能力の向上を図るとともに、聞く人びともスピーチ



スピーカー勢揃い

の中から新しい視点を得ながら、「共に生きる国際社会」の実現をみんなで考えようとするもので、今回は「私の国の学校」が、メインテーマであった。

11人がチャレンジしたが、内訳は、留学生6人（秋田大学2人、秋田経済法科大学2人、国際教養大学2人）、秋田県海外技術研修員1人、秋田県国際交流員1人、主婦2人、社会人1人であった。（国別では7カ国、韓国4人・中国1人・モンゴル2人・アメリカ1人・タイ1人・ベトナム1人・ネパール1人）

何よりも「魅」せてくれたのは、自分の思いを伝えようとする精一杯の気持ちであった。「私の国の学校」というテーマに対して、自らの思い出や出来事、そして自分の気持ちを異国の言葉に表し、それを大勢の人に伝えることは簡単なことではなく、また非常に勇気のいることであろう。だからこそその精一杯の気持ちに触れた、あの会場の全員が、スピーカーのみんなに



今日から仲間

「魅」せられたことと思う。

II部では、内容に関してもっと聞きたいことなど、スピーカーとの意見交換・交流の場として「スピーカーとの語らいタイム」を設けた。スピーカーは2～3人ずつ5グループに分かれてもらったが、終始活発な意見交換が行われていた。2、3ピックアップすると、

●韓国での受験戦争のこと ●海外ボランティアを経験して単位を取得する科目があり、実際に体験することが深い学びにつながるの話は、今の日本の学生にも大いにやってほしいことだと思う。 ●兵役の体験・紹介で感じたことは、若い時代に国家的責任を果たしたことへの自信が、その社交性、積極性を形成しているように見え、留学中、日本の学生にもよい影響を与えてくれることを願った。 ●日本語上達のコツは、英語の話せない日本人と積極的に付き合うことという話にみんな納得！

話題は、お国の学校だけに留まらず、習慣や個人的なことまで多岐にわたっていた。

今回II部の「スピーカーとの語らいタイム」は初めての試みであったが、スピーカー一人や世界を身近に感じると同時に、交流プログラムの大切さを改めて考えるよい機会となった。



最優秀賞に輝く！

あきたのファミリー

■ 秋田県国際交流協会

「あきたのファミリー」は、秋田で学んでいる留学生を気軽に家庭に呼んでひとときを共にしたり、会えないときは電話で話したりと、留学生にエールを送りながら自由に交流する活動です。留学生はもちろん、受入れ側のファミリーにも、この交流を通じて相互理解を深めてもらうことを目的としました。

平成18年7月の対面式では、最初はお互いに緊張していましたが、だんだんと話が進むにつれてアットホームな雰囲気になり、交流がスタートしました。

交流内容は竿燈や盆踊りなど地域の行事に参加したり、一緒に料理を作って食べたり、と各家庭で様々だったようです。中には冬休みを利用して、留学生のお国を訪問したファミリーもいたようで驚きました。

平成19年1月には「報告&交流会」を開催し、参加者からは「お互いの文化の違いを知ることができ、新しい発見がある交流ができた」



「本当の家族のようでした」などの感想がありました。交流会では、「ドンパン節」や「各国のあいさつゲーム」などで交流を楽しみました。

留学生の多くは、3月に秋田を離れます。母国に帰ってから、秋田での体験や日本のことをたくさんの人に伝えていただきたいと思います。

参加者からの声（感想文より抜粋）

- ・今回、留学生と交流するにあたり思ったことは、気負わずいつもの我が家に招きたいということでした。ご馳走も旅行もないけれど、みんなでいろんな話をして、日本の家庭の様子を知り、我が家を日本の家のように思ってもらえたのなら幸いです。
- ・普段、自分の生活の中ではきっと経験することが出来ないことがこの出会いによってはじめた様な気がします。そしてこの出会いをこれからもずっと大切にしていきたいと思っています。
- ・留学生というのは家族と遠く離れているものなのですが「ファミリー」と一緒にいるとき自分の本当の家族の中にいるような感じがときどきしました。
- ・食事をしながら、私は本当に家族の一員としての気分になり、お母さんと話したりしていました。お父さんは寂しかったかもしれません（笑）



秋田県日中友好協会女性委員会年間行事

秋田県日中友好協会女性委員会

2005年12月13日

総会ならびに忘年会

40名参加

〈胡弓ミニ演奏会・昼食交流会〉

2006年1月29日

秋田地区日
中友好協
会・女性委
員会・学友
会合同春節
を祝う会



100名参加

〈太極拳・少林寺拳法披露とお楽しみ交流会〉

2006年4月22日

秋田地区日中友好協会・女性委員会・学友会
合同のお花見

100名参加

〈千秋公園内貸席にて新入留学生を囲んでの
交流会〉

2006年7月20日

秋田地区日中友好協会主催の胡魯島映画上映
会に参加協力

15名参加

〈中国からの引揚者の方々との交流会〉

2006年7月30日

秋田地区日中友好
協会・女性委員
会・学友会合同地
引き綱



100名参加

〈出戸浜海水浴場
にて地引き綱・ス
イカ割り・海の家
にて焼き肉パーティー〉

2006年9月9日

ゆかた茶会

30名参加

〈一戸会長
宅茶室にて
留学生等男
女18名全
員が浴衣を
着て茶道初体験〉



にじり口
「無理! こんなせまい所からは入れません」
「はいれますよ昔はお侍さんも刀を置いてここから入りました」



「すわるのってたいへん 日本
の人はなぜできるの?」



お茶を点てるのは茶道裏千家ボランティアの方々。このように会員でない方々の協力もあってはじめて成り立ちます。

2006年10月1日

秋田地区日中友好協会・女性委員会・学友会
合同国慶節を祝う会

100名参加

〈ホテルにてパーティー〉

ホームステイで留学生と交流 協会の行事にも全員招待

秋田モンゴル友好協会

当協会は2004年11月に発足した若い協会で、会員も1月末で140人という小さな団体です。活動状況を紹介させていただきます。

事実上、初年度に当たる2005年には駐日モンゴル大使を招き、協会員以外の県民も対象とした講演会を開催、両国の政治、経済、文化について学習しました。また県内居住のモンゴル留学生を支援する事業として、留学生全員を秋田の竿燈まつり見物や、世界遺産白神山地見学に案内しましたし、海水浴場へも招待しました。さらには、協会の諸行事に必ず留学生に参加してもらい、会員および県民との交流を図りました。

2006年は協会が主催、建国800年を迎えたモンゴルへチャーター機をしたてて160人規模で親善訪問しました。この訪問では、産業経済文化の各方面からの代表者も参加していただき、積極的に会合をもち、本県と同国がより深く交流できるよう努力しております。

留学生との関連では、10月から国際教養大学の留学生6人を対象に3人の会員が分担してホームステイをそれぞれ二度にわたって実施しました。この催しで日本の家庭生活を体験した留学生は大感激で、『学ぶところが多かった』と異口同音に語っておりました。

協会では2005年9月から、4ヶ月ごとに会報『蒼天』を刊行して、毎号、留学生に登場していただき、会員たちに名前を知られるようになって、互いに親しみを感じてきていたようです。

留学生は1月末で国際教養大学6人(うち5人は1年間滞在の交換留学生)、秋田大学2人、秋田高専1人ですが、6月から8月には、国際教養大学にサマープログラムの短期留学生が5人ほ

どやってくるので、この時期は15人ほどになります。協会は留学生との交流が両国の絆を深くる極めて有効な事業だとの考えから、今後も積極的に推進していくことにしています。

(広報担当理事・杉渕 廣)



協会の会合には必ず留学生を招待して紹介し、親睦を深くするようにしている(昨年7月の親善訪問打ち上げ総会でも留学生を紹介)



ホームステイでは海のない国の留学生だけに、海岸でのひと時が印象的であったという(昨年10月、由利海岸で)

留学生交流事業の紹介

■ 秋 田 大 学

秋田大学では毎年季節に応じたイベントも用意して皆さんをお待ちしています。秋田ならではの夏まつりや、冬の小正月行事を体験することは異文化に触れる絶好の機会です。来年度も同様のイベントを企画しますので、本年度参加できなかった方は是非トライしてください。

【北東北3大学外国人留学生合同合宿研修会】



北東北3大学連携推進会議の事業の一環として、弘前大学、岩手大学及び秋田大学の合同合宿研修を平成18年7月15日～17日（2泊3日）の日程で行い、留学生と日本人学生の40人が多文化状況で課題に取り組みながら親睦を深めました。

今年度は秋田大学が幹事校となり、市内の秋田県青少年交流センター（ユースパル）を会場に全員泊まり込みで行いました。初日は、異文化コミュニケーションゲーム・アイスブレイク

に続いて9グループに分かれてビデオスキットの作成作業、テーマ選択、アイデア作成を行いました。

二日目は前日のアイデアを基にスキット作成・練習、ビデオ撮影を行い、最後に各グループの発表会（ビデオ上映）を行いました。

異なる文化背景を持つ者が集まって共同作業を行うことで、コミュニケーション能力が必要であることを学生に自覚させることができた有意義な研修会となりました。

【竿燈まつり体験】



東北の有名な夏祭りのひとつである「竿燈まつり」（国の重要無形民俗文化財に指定）が平成18年8月3日～6日の4日間、秋田市竿燈大通りを会場に盛大に行われました。期間中、参加した留学生は秋田大学竿燈会のメンバーと一緒に堂々と入場行進し、揺れる稲穂（提灯）を

眺めながら秋田の風土や文化に直接触れることができました。

【留学生体験事業「日本のもちつき」】



平成18年12月27日、年末恒例の留学生体験事業「日本のもちつき」を秋田大学の学生会館（愛称：クレール）食堂で行いました。留学生30名を含む地域住民ら100名が交流しながら

杵（きね）を持ち、近隣の町内会の方々による合い取り（あいどり）に息を合わせて餅つきを楽しみました。

留学生にとっては初めての経験でしたが、町内の長老から指南を受けた留学生はわずかの間に上達し、杵の取り合いになるほど盛況でした。餅をついた後は、お供えや雑煮作りに挑戦し、出来上がったほかほかの餅や雑煮に舌鼓を打っていました。

また、当日はテレビ局や新聞社からの取材もあり、県民に対しても本学の事業内容をPRすることができました。

なお、今回はノロウィルス対策として、参加者にマスク・手袋の着用や手洗いの励行などに



協力してもらいました。

【留学生卒業記念パーティー】



平成19年3月9日、秋田大学留学生の卒業を祝うためのパーティーを開きました。卒業生22名中、8名が参加し関係者を含めて総勢74名となりました。卒業留学生のスピーチでは、秋田大学で学んだことや、日本での苦労話など体験談がたくさん聞かれました。国際交流支援団体等、関係機関の職員や本学教職員らに囲まれながら別れを惜しんで感極まる留学生の姿が見られました。

アトラクションでは、秋田大学ジャズ研究会による演奏が繰り広げられ、心地よい演奏に聴き入っていました。

秋田地域留学生等交流事業

■ 秋田地域留学生等交流推進会議

【秋田地域留学生等交流実地見学旅行（佐渡）】

平成18年8月7日～9日の2泊3日の日程で、県内高等教育機関に在学する留学生を対象に留学生等交流実地見学旅行を実施しました。今回は留学生21名（引率3名）がフェリーで行く佐渡の旅を楽しみました。

参加者は青く輝く日本海の美しさや、山並みのすばらしい景色を堪能するとともに、初日の佐渡歴史伝説館及び2日目の北方文化博物館では日本の歴史や文化の一端に触れることができ、一様に満足していました。

また、佐渡西三川ゴールドパークでの砂金とり体験では、バスの出発時間を忘れるほどの熱中ぶりでした。

岐路の車中では国籍を超えてお互いにゲームを教えあうなど、留学生活の適応を促すという意味でも有意義な体験になりました。



【秋田の伝統行事「紙風船上げ」体験旅行】

平成19年2月10日、秋田の代表的な冬まつりである仙北市上桧木内の「紙風船上げ」を見学しました。今回は秋田大学と秋田工業高等専門学校からの留学生など28名が参加しました。紙風船上げは、武者絵や美人画が描かれ、灯火をつけた巨大な紙風船がきらめく星々のごとく真冬の夜空に舞う幻想的な伝統行事です。午後6時からの一斉打ち上げでは、各自がその年への思いや願いを託した紙風船が100個あまり打ち上げられ、留学生は冬の夜空に舞い上がる紙風船を見上げては大きな歓声をあげていました。

日帰りの体験ツアーでしたが、秋田の伝承文化を存分に楽しみました。



平成18年度国際交流事業の実施状況

地方自治体・国際交流団体

事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ()内は参加 留学生数	事業の内容	
海外技術研修員等受入事業 秋田国際理解民間大使等活動支援事業	秋田県	H18.6～H18.11	4	開発途上国等から研修員を受入れ、県内大学、企業等で研修を行う	
		随時	7	学校等が実施する国際理解講座に講師として派遣する他、在住外国人の国際交流活動をサポートする	
ホームステイ受入支援事業		通年	21	秋田県内の高等教育機関に属する留学生や、高校生の交換留学生等を積極的に受け入れるホストファミリー等の拡充を図り、草の根交流を通じて地域住民の国際理解推進に資する	
海外技術研修員受入れ 日本語留学生受入れ（高校生）	秋田県国際交流協会	H18.6～H18.11	4	専門技術の習得、県民との交流	
		H18.5.22～7.10	4	ハンガリー、ハバロフスクで日本語を学ぶ高校生を対象にした県内高校への短期留学	
ハンガリースタディツアー受入れ		H18.5.10～5.20	20 (4)	ハンガリーの中学・高校生を招聘。ホームステイ、日本文化体験を通じての相互理解の推進	
ハバロフスクスタディツアー2006（派遣）		H18.8.7～8.14	12	県内の中学・高校生をハバロフスクに派遣。学校訪問、日本文化紹介、ホームステイを通じての相互理解の推進	
グローバルリーダーズスクール サマープログラム2006（甘粛省） あきたのファミリー		H18.7.25～7.31	7	県内の青少年を甘粛省へ派遣。甘粛省の緑化促進や現地の青少年との交流など	
		H18.7～H19.3	19家族 (19)	秋田県内の大学などに在籍する留学生への日本の一般家庭に短期滞在、交流する機会の提供	
2006あきた国際フェスティバル		H18.11.12		県内在住外国人による母国紹介、国際交流団体による活動紹介、ステージパフォーマンス、映画上映、講演会など	
グローバルリーダーズスクール ウィンタープログラム2006（東南アジア） 秋田国際理解民間大使の派遣 セントクラウド訪問団派遣事業		H19.1.3～1.10	12	中学・高校生をフィリピン・ベトナム・カンボジアに派遣。国際協力現場の視察、現地学生との交流など	
		随時	民間大使15	学校などが実施する国際理解講座に講師として派遣	
		H18.6.25～7.4	8	市町合併に伴い、改めて本市として姉妹都市提携を結ぶため、本市代表団が、米国ミネソタ州セントクラウド市を訪問する	
姉妹都市交流事業	秋田市	H18.10.5～13	30	本市代表団がドイツパッサウ市を訪問し、姉妹都市提携20周年記念返礼品（記念モニュメント）の除幕式に出席する	
蘭州市文化交流事業		H18.9.30～10.29	1人 交流事業 参加者約100人	中国蘭州市から、太極拳の専門家を招へし、市民体験講座を開催する	
蘭州市医療研修員受入事業		H18.10.23～12.17	2	中国蘭州市から、医師2名を医療研修員として受け入れ、市内医療機関において研修を行う	
姉妹都市フォーラム推進事業				市民主体の国際交流推進のため、姉妹都市フォーラムを発展的に改組し、会員がより主体的活動ができるよう支援する。自主企画展の開催、情報誌の発行、HPの開設、勉強会の開催など	
国際理解促進事業		対象期間：H18.7～11のうち7～10日間程度	パッサウ3名 キナイ1名	友好姉妹都市等にホームステイを希望する市民にホストファミリーを斡旋する 対象都市：ドイツパッサウ市、米国キナイ半島郡	
地域国際化推進事業 （在住中国人サポート関係経費）		H18.4～H19.3		秋田市日本語教室への運営費補助	
外国青年招致事業 国際交流フェティバル		能代市			ALT2名を招致し、英語教育への支援を行う
					市民と外国人との交流会開催。イベントを通じての交流、講演会の実施など
日本語学習ふれあい交流支援事業			日本語講座（年94回）、ボランティア養成講座（年12回）		在住外国人を対象にした日本語講座や日本語指導者を養成するボランティア養成講座の開催
日本語教室		横手市	週1回 （年44回）	約20	在住外国人が日常生活に必要な日本語の会話並びに読み書きを習得することを目的とする。また、生活等の相談に応じ、日本での生活順応を支援する
市民ガイドブック （外国語版）	8月完成 配布			在住外国人が安心・安全に日常生活を送ることができるようガイドブックを3カ国語（中国語、韓国語、英語）で作成する	
ホームステイ受入	H19.10/7～9 H19.2/15～17		各10	明海大学（千葉県浦安市）の留学生を市内の家庭にホストファミリーとして受け入れてもらい、相互の国際理解を図る。また、留学生には、秋に地域農産物の収穫、冬に地域行事を体験してもらい、地域のPRと活性化を図る	
大仙仙北地域外国籍住民等サポート事業	大仙市	通年	3 【相談者数】	大仙仙北広域圏日本語講座の指導員からコーディネーター1名、サポーター2名を委嘱、生活相談や情報提供活動にあたる。（相談があれば随時対応する）	
外国語指導助手（ALT）招致事業		通年	2,593 【生徒数】	小中学校の英語の授業等でALTを活用し、児童・生徒が異文化に触れる機会を設けるため。（大仙市に6名）主に市内中学校12校へ	
国際交流員（CIR）招致事業		通年	不明	小中学校の英語の授業等でCIRを活用し、児童・生徒が異文化に触れる機会を設け、児童・生徒の異文化を理解する資質を養うため。（大仙市に1名）	
中学生海外派遣事業		H19.1.4～1.12	20	中学生を海外に派遣することにより、外国や異文化、また自国に対する興味をもつ機会を設けるため	
地域で進める親子国際理解推進事業		H18.6.17～11.11	65 (13)	自分の住んでいる地域で外国の生活や文化、言葉などに親しんでもらい、国際理解の心をはぐくむ。年9回	
外国青年招致事業	仙北市	通年		外国から青年を招致し、英語教育の充実と国際理解の推進を図る（ALT）	
大曲仙北地域外国籍県民等サポート事業 （負担金）				外国籍住民が生活習慣の違い日本での生活上の様々な問題に対峙したときの解決手段への相談、アドバイス等を相談員が行う	
大曲仙北広域市町村圏日本語講座（負担金） 国際理解講座—イスラエル・インドネシア、それぞれの国の子どもたちと教育— ヒマラヤの小さな村に電気がついた！ （ヒマラヤ・プロジェクト報告会）		H18.4.15	35	外国籍住民に日本語教育を支援するため日本語教室を開催する 国際理解を促進するための事業	
		H18.8.26		秋田県立大学システム科学技術学部の学生が、ヒマラヤの電気のないお寺や小学校にソーラーシステムで電灯をともし活動（ヒマラヤ・プロジェクト）をしているが、その報告会を行う	

事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ()内は参加 留学生数	事業の内容
日本語によるスピーチ・コンテスト スピーカーとの語らいタイム	秋田ユネスコ協会	H18.10.29	5	秋田に住む外国人が日本語で自分の意見を発表することによって、日本語能力の向上を図ると共に、聞く人々もスピーチの中から新しい視点を得ながら「共に生きる国際社会の実現」をみんなで考えようとするものである
世界と語るユネスコ・ニューイヤーパーティ		H19.1.21		秋田に住む外国人と県民が共に語る出会いの場として定着。毎年ここから新しい交流が生まれている
書き損じはがき回収キャンペーン		H19.1.27～28		「ユネスコ・世界寺子屋運動」の参加の一つとして書き損じはがきを集め、途上国への識字支援
桜を楽しむ会 (県日中女性委・秋田地区日中・学友会共催)	秋田県日本中国友好協会	H18.4.22	76 (38)	千秋公園の香雲亭で会食しながら花を愛でる
地引網交流会 (県日中女性委・秋田地区日中・学友会共催)		H18.7.30	66 (35)	出戸浜で地引網体験 スイカ割り、焼き肉で交流
国慶節を祝う会 (県日中女性委・秋田地区日中・学友会共催)		H18.10.1	115 (60)	コットンズミニコンサート、日中カラオケ合戦、ビンゴ 会員持ち寄り商品100点
留学生を招き茶会(県日中女性委主催)		H18.9.9	41(18)	一戸会長宅の茶室に留学生、国際交流員らを招き日本伝統の茶道を浴衣姿で親しむ
能代市日中、長春の養父母慰問		H18.9.8	代表4	日中友好会の窮状を知り、同所を慰問、4人に50万円。このうち県日中も8万円協力
在日中国人研修生と夏の交流会 (能代市日中友好協会主催)		H18.7.30	130 (80)	漁協の協力を得て地引網体験 餃子、イカバーベキュー、スイカ割りなど
ぶどう狩り交流会 (横手市日中友好協会主催)		H18.9.23	50 ()	中国からの研修生や花嫁らを招き会員のぶどう園で実施。それぞれの国の歌を歌い、食事をしながら懇談
春雪を祝う会 (県日中女性委・秋田地区日中・学友会共催)		H19.1.28	100 (40)	「フォンテーヌ」で正月を共に祝う。ビンゴやカラオケにたくさんの賞品
2006年度講演会	あきた南米交流会	H18.4.15	1	演題「目を見て話そう」 講師：藤田奈緒子(青年海外協力隊 ポリビア派遣)
南米研修員歓迎会		H18.7.29		アルゼンチンからの研修員の歓迎会
南米へ日本語図書発送		H18.9.27		ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ3か国の日本語学校、老人ホーム13カ所
天野芳太郎記念会		H18.10.14		男鹿市協本公民館
南米研修員を送る会		H18.11.23	1	帰国する研修員を励まし、送る
トーク&トークPart I あなたの国、私の国 シリーズ ブラジルのお国事情	国際交流オープンクラス	H18.7.23	10 (1)	ブラジルの経済、教育、男女共同参画のあり方について話し合う
アフリカの教師団とふれあおう		H18.9.8	28	中学生たちとアフリカの教師たちとのスポーツ(卓球)交流(2名)
トーク&トークPart II あなたの国、私の国 シリーズ モンゴルのお国事情		H18.10.22	6 (1)	モンゴルの家庭、教育、経済等について話し合う
食文化シリーズ モンゴルの料理		H18.11.19	15(5)	モンゴルの家庭料理を共につくり、食べ、交流を行う
食文化シリーズ 中国の料理		H19.1		中国の家庭料理を共につくり、食べ、交流を行う
奨学金制度	国際ソロプチミスト秋田	H18.5.31		留学生へ毎月3万円ずつ奨学金を支給(対象1名で1年間) 開発途上国の人々から要望が寄せられた物品をJICAが派遣中のボランティアを通じ提供

人学・高専

事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ()内は参加 留学生数	事業の内容
韓国慶熙大校交換留学生 角館お花見バスツアー	秋田経済法科大学 国際教養大学	H18.4～H19.3	2	交換学生
仁賀保中学校学生50名との交流		H18.5.1	54 (29)	日本人学生24名と合計で53名参加。古い角館の町並みと満開の桜内川の桜を楽しむ
戸島小学校田植え		H18.5.8～9	(5)	8日に、仁賀保中学校の生徒10数名がまず本学を訪問し、留学生5名と交流。翌日、50名の生徒が訪問・見学
戸島小学校全児童と一緒に田植え体験		H18.5.26	10 (1)	戸島小学校全児童と一緒に田植え体験。日本人学生8名と1名の留学生参加
河辺へそ祭り		H18.6.4	(数名)	学生の呼びかけで留学生等学生が数名参加
十和田・八幡平一泊キャンプツアー		H18.6.10～6.11	52 (27)	十和田・八幡平の名所・自然観光、康楽館(伝統的な芝居小屋)観覧、メインランド尾去沢の鉱山跡を観光。また、十和田の奥入瀬散策。キャンプを通して、日本人学生との交流を楽しんだ。日本人学生25名、計52名参加
大仙市(旧西仙北町)施設見学と英語で遊ぼう まごころ横手講座		H18.6.21	(10)	1年生から5～6年生まで約30名参加。日本人学生の協力もあり
七夕祭り		H18.6.25	3	横手郷土料理教室と交流会、観光情報などを得る
七夕祭り 七夕ミュージック・フェスティバル		H18.7.7	(35)	(学生会学生活動委員会主催) サマープログラム参加の学生を歓迎し、また留学生に日本らしい祭りを楽しんでもらうため、学生会が企画。学生のミュージックやダンスのパフォーマンスもあり
男鹿バスツアー		H18.7.8	26 (12)	寒風山と入道崎・鶴崎海岸の景観、なまはげ館の観覧となまはげ体験、水族館「GAO」を見学
角館バスツアー		H18.7.17	(12)	武家屋敷、安藤醸造など見学
戸島小学校の児童本学見学		H18.7.18	(数名)	児童25名が見学 10:45～11:50
ホームビジット・プログラム		H18.7.22	(29)	地元一般家庭に週末ホームステイ
秋田モンゴル友好協会送迎会		H18.7.28	10(9)	1年間の留学5名、サマープログラム参加者4名に対する送迎会
秋田竿燈まつり		H18.8.3～6	約60名 (5)	AU竿燈会が秋田竿燈まつりに参加。見学に来た留学生は多数であった
鳥海山・かんまん寺・十六羅漢ー日本海バスツアー		H18.9.16	99 (68)	留学生と日本人学生38名、職員3名参加。 鳥海山、かんまん寺、十六羅漢、白瀬南極記念館、齋弥酒蔵の酒蔵見学、日本海を堪能

事業名	主催団体名	開催時期	参加者数 ()内は参加 留学生数	事業の内容
青少年育成委員会オープン委員会「世界の文化にふれてでっかい夢を見つけよう」	国際教養大学	H18.9.23	(18)	児童30名と中央公園ファミリーキャンプ場にて一緒にクッキング、ゲームなど国際交流。秋田青年会議所主催
外国人留学生と地域住民による街おこし企画ワークショップ		H18.9.30～10.1	11 (8)	本学から留学生8名と日本人学生2名、引率職員1名が参加し、秋田大学など他大学の留学生や日本人学生、教職員、地域の人との交流。田沢湖ロッジに1泊し、角館、田沢湖も見学
国慶節を祝う会		H18.10.1	(5)	南海大学の中国人学生5名が参加。秋田県日中友好協会の招待
AIU祭・産学交流フェスティバル		H18.10.8～9	全学生他(70)	母国の概要展示、伝統料理の販売等による地元住民との交流
羽城中学校生徒の本学訪問		H18.10.19	(10)	カフェテリアにて、総合学習で来学の中学生4名と情報交換。学生の質問に答える
ユニセフ スピーチコンテスト		H18.10.26	(2)	本学からは2名のモンゴルからの留学生が参加した。全部で11名、本学の1名の学生は優秀賞を獲得した
ホームビジット・プログラム		H18.10.28～29	(約50)	地元的一般家庭に週末ホームステイ
すし国際交流講習会「すしセミナー」		H18.10.29	5	遊学舎にて、すしのセミナーが行われた。日本人学生も7名参加。¥1500での体験
ハロウィーンフェスティバル		H18.10.30	学生多数 (50)	留学生が主催したパーティ。日本人学生も参加し、ダンスなどハロウィーンを楽しむ
ふるさと村、まんが美術館、小安峡バストリップ		H18.11.3	48 (40)	ふるさと村、まんが美術館、小安峡に行き、秋の紅葉を楽しんだ。日本人学生も参加
大仙市英語で遊ぼう		H18.11.11	18 (12)	6名の日本人学生と参加。買い物ゲーム、名刺交換、自己紹介などで、子供との英会話を楽しむ
雄和国際料理教室		H18.11.19	(13)	韓国、モンゴル、中国（香港）の学生が自国の料理を披露しクッキングする。雄和国際交流協会会員とふれあう
2006年度 環日本海圏留学生秋田発見体験ツアー		H18.11.25	(14)	齋弥酒蔵見学、道の駅にしめレストラン砂丘で昼食、TDK歴史館視察、仁賀保高原土田牧場、風力発電所見学、道の駅象潟・合歓の丘で入浴とショッピング。他大学に在学している留学生と一緒にツアーを楽しみ交流を深めた。
美郷町 チャレンジクラブ		H18.12.3	3 (2)	日本人学生1名と一緒に参加。地域の子供と英語で会話、ゲームを楽しむ
雄和河辺商工会きりたんぼ作り		H18.12.9	9 (6)	雄和河辺商工会の方々と日本人学生ときりたんぼを作り、交流を楽しむ
美郷町 チャレンジクラブ		H18.12.10	3 (2)	日本人学生1名と一緒に参加。地域の子供とクリスマスパーティを通して、英語会話、ゲームを楽しむ
大仙市教育委員会西仙北分室 英語体験チャレンジ広場		H18.12.23	16 (5)	ご飯を食べながら、外国のクリスマスの様子や必ず食べる料理、お菓子について子供に紹介。スタンドグラスクッキーと一緒に作り、ゲームを楽しむ。英語での交流あり。大好評。対象は、小中学生30名
秋田市河辺雪祭り		H19.1.27～28	(30)	秋田市河辺地区で行われた雪祭りに本学の学生や台湾東呉大学の学生等が参加。花火や屋台などを楽しむ。AIUの学生が作った雪像なども楽しみ、地域の人々と交流した
大仙市西仙北中央公民館 英語サークル		H19.1.28	3 (2)	自己紹介、手巻き寿司作りを英語で教え・学び、ゲームをする。また英単語のカルタ取り、質疑応答など。本学との交流をみて、感動した地域の子供の保護者が英語サークルを立ち上げ、今後も本学の学生と交流を広めたい
留学生支援の会 クロスロード秋田	H19.2.4	(6)	桜地域の人々ときりたんぼの昼食後、尺八演奏等を楽しむ	
大仙市教育委員会西仙北分室 チョコレート菓子作りと、刈和野大綱引きと ホームステイ	H19.2.10～11	5 (4)	チョコレートの菓子作りと、刈和野大綱引きとホームステイ体験	
なまはげ柴灯祭りバスツアー	H19.2.11	39 (26)	日本人学生11名と留学生と一緒にバスツアー。水族館GAOと柴灯まつりを楽しむ	
阿仁のホームステイと地域の人との交流	H19.2.24～25	12 (7)	ストリートキャンドル作りと地域のイベント参加、阿仁の樹氷見学ツアー、きりたんぼ作り、ホームステイ	
AIU雪祭り	H19.2.24	(20)	テントの中で、甘酒と豚汁を振る舞う。きりたんぼを作る。また、前日にパフォーマンスを楽しむ	
秋田クロスロード主催 ザ・ブーンツアー	H19.3.12	7 (6)	水泳、食事を桜地域の人と楽しむ	
学校の枠を越えた留学生合同研修 (東北地区高専留学生対象)	秋田工業高等専門学校	H19.1.5～7	30	交歓会、秋田中央トンネル工場現場見学、JUKI電子工業見学、ふれあいセンターかまくら館見学
秋田地域留学生等交流実地見学旅行 (佐渡島)	秋田大学	H18.8.7～9	21	貸切バス旅行で留学生同士の交流を図る。また、佐渡歴史伝説館、北方文化博物館の見学により日本の歴史や文化の一端に触れるとともに、体験学習として砂金取り体験を行う
北東北3大学外国人留学生合同合宿研修会		H18.7.15～17	40	弘前大学及び岩手大学の留学生との交流会 合同合宿研修会を通じて異文化コミュニケーションゲーム・アイスブレイキング、ビデオスキット作成・発表を行い、他文化交流を体験する
外国人留学生と地域住民による街おこし企画 ワークショップ		H18.9.30～10.1	13 (7)	本学から留学生7名と日本人学生1名、チューター教員3名が参加し、国際教養大学、秋田県立大学、秋田高専の留学生や日本人学生、教職員、県南地域の住民（10名）といっしょにグループディスカッション等を行い交流する
留学生体験事業「もちつき」		H18.12.27	100	日本の伝統文化「もちつき」を体験
秋田の伝統行事体験旅行「紙風船上げ」		H19.2.10	28	秋田の冬の行事（小正月）を体験

平成18年度秋田地域留学生等交流推進会議議事要旨

日 時：平成18年12月8日（金）15:00～16:40

場 所：秋田ビューホテル（飛翔の間）

議事に先立ち、推進会議議長の三浦 亮秋田大学長から挨拶の後、文部科学省高等教育局学生支援課留学生交流室 石井伸宜留学交流支援係長から、留学生交流関係の平成19年度概算要求額や日本の留学生制度の概要について、図表を織り交ぜた説明があった。今後もさらなる外国人留学生の受入増と質的充実の両面を推し進めながら国際競争力を高めていく所存であること、また一方では、外国人の不法残留を最小限度に留める努力も必要であり関係機関の協力を求めたいとの説明があった。

1. 議事

(1) 報告事項

①平成18年度秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会報告について

運営委員会委員長から、資料1に基づき報告があった。

②平成18年度学校等別外国人留学生等受入数等について

事務局から、学校等別留学生受入数及び住居形態別留学生数について資料2に基づき報告があった。

③秋田地域における国際交流団体等の事業実施状況について

事務局から、本年度の県内国際交流支援団体等による各種事業の実施状況及び県内各種団体等による留学生支援事業の実施状況について、資料3に基づき次のとおり報告があった。

【秋田大学】 例年実施している夏の実地見学旅行及び冬の伝統行事体験事業、北東北国立3大学外国人留学生合同合宿研修会、冬の体験事業「もちつき」の他に、今回初実施となった「外国人留学生と地域住民による街おこし企画ワークショップ」についての報告があった。

【秋田県】 本年初のホームステイ受入れ支援事業（あきたのファミリー）を平成18年6月から12月までの期間実施し好評であった。また、厳しい財政事情の中、ODA政策の見直しを受けて海外技術研修員受入れ事業が縮小していること並びに各大学の留学生宿舎の不足が問題視されている中で、国民健康保険加入助成金及び居住費支援金の交付制度により引き続き援助していきたいとの報告があった。

【国際教養大学】 積極的に留学生を様々なイベントに参加させており、地元小中学生との交流や、ホームビジットプログラムにより一般家庭との交流も採り入れ多彩なメニューを準備している。また、協定校に関して今後も増やす予定であり、結果として留学生増が期待できるとの報告があった。

【秋田高専】 昨年度からはじまった東北地区7高専による留学生交流会を、秋田高専主管で平成19年1月5日～7日に実施予定であるとの報告があった。なお、学校の枠を越えた留学生の相互交流を通して、東北圏内の文化などに理解を深めてもらう良い機会であることが強調された。

④外国人留学生と地域住民による街おこし企画ワークショップの実施報告について

事務局から、資料4に基づき平成18年9月30日～10月1日の2日間実施した街おこし企画ワークショップについて実施概況の報告があった。また、アンケート調査からは、地域住民と留学生とが双方に満足度が高かったことが分かり、さらに来年以降も是非続けて欲しいとの意見が多数あった旨の説明があった。

⑤その他

事務局から、留学生センターの設置等に関する質問があり、文部科学省石井係長から、法人化後は当該施設整備に関する充足数等の制約は全くないので運営費交付金の中で独自に取り組んで構わないとの回答があり、今後の戦略においてどんなことをやりたいのか具体的な構想を立てること及びその取組みに大いに期待したいとの付言があった。

(2) 協議事項

①外国人留学生等交流事業の推進について

運営委員会委員長から、資料5に基づき本年度の実施結果を評価して、来年度以降も「外国人留学生と地域住民による街おこし企画ワークショップ」を企画していきたいとの提案があり、協議の結果、来年度は県北を会場に実施することとした。

また、計画に当たっては、各経済団体への相談があれば受入先とのコーディネートやアイデアを提供できるとのアドバイスがあった。

②その他

委員から留学生のインターンシップへの取組状況について秋田大学に対して質問があり、今後早急の実証データを整理して経済団体の利用に供することとした。

また、民間団体としては今後も経済的な援助に務めていきたいとの支援申し入れがあった。

(3) その他

特になし。

平成18年度秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会議事要旨

日 時：平成18年11月22日（水）16:00～17:10
場 所：秋田大学本部管理棟第1会議室

（1）報告事項

①平成18年度学校等別外国人留学生等受入数等について

資料1のとおり報告があった。

②秋田地域における国際交流団体等の事業実施状況について

資料2により報告があった。

③外国人留学生と地域住民による街おこし企画ワークショップについて

資料3により、本推進会議主催で中島記念国際交流財団助成事業に応募し採択された助成金を基に、9月30日～10月1日（1泊2日）に県南角館・田沢湖方面で実施したことの報告があった。

④その他

特になし。

（2）協議事項

①外国人留学生等交流事業の推進について

各高等教育機関及び秋田県から留学生等交流事業の推進策あるいは支援策について次のとおり説明があった。

【秋田大学】

本推進会議主催の「夏の実地見学旅行」「秋田の伝統行事体験旅行」の継続実施、北東北3大学持ち回りによる留学生合同合宿研修並びに本学独自の体験事業の3本柱で交流事業を実施している。また、本年度初実施の街おこし企画ワークショップは、参加した地域住民及び留学生・日本人学生のアンケート調査からも良い評価を得ており、大学の枠を越えた留学生同士が異文化を体験しながら交流することが大事であると認識している。

【秋田県】

本年初実施のホームステイ受入れ支援事業（あきたのファミリー）が順調に進んでいる。しかし、留学生各種支援金自体は厳しい予算状況下であり目減り傾向で、各大学・高専の理解を得たい。また、海外技術研修員受入れ事業では、大学、病院等で研修を行い成果を上げているので、各団体の協力を得ながら継続していきたい。

【国際教養大学】

地域貢献事業とリンクして積極的に留学生を様々なイベントに参加させている。これは授業の一環として行っているものであり、地元小中学生との交流や、ホームビジットプログラムにより一般家庭との交流も採り入れて実施している。今後も体験型学習のメニューを増やしていきたいと考えている。

【秋田県立大学】

留学生交流事業の予算がないため、大学主体事業は今のところ計画していない。本学留学生2名が前述の街おこし企画ワークショップに参加し、非常に好評だったと聞いている。

【秋田工業高等専門学校（秋田高専）】

学校の枠を越えた留学生合同研修を、秋田高専主管で来年1月5日～7日（2泊3日）に東北ブロックの高専留学生を対象に実施予定である。見学先として秋田中央トンネルの工事現場や県内有数の事業所見学を計画している。同時に他高専留学生との親睦も大いに計れるものとして期待している。

その後、積極的な質疑応答があり、委員長から「外国人留学生と地域住民による街おこし企画ワークショップ」は当初3か年計画で順次実施する予定となっていたこともあり、来年度以降も助成金受領の有無にかかわらず実施したいとの提案があり、協議の結果、提案どおり実施することとした。

引き続き、来年度は県北を会場に実施したいので各委員から具体的なアイデアをぜひとも提案して欲しいとの依頼があった。

②平成18年度推進会議の開催日程及び提出議題等について

資料4のとおり了承した。

③その他

委員から次の意見があった。

「秋田の伝統文化を留学生に体験させることには意義があり、既存の資源を利用した交流事業は大いに価値がある。今回の街おこし企画ワークショップでは秋田が産んだ食材をディスカッションテーマの一つとしており、伝統文化を通して留学生は異文化をたくさん吸収し、やがて彼らにより世界に情報発信できる。今後も継続して実施して欲しい。」

（3）その他

事務局から、推進会議を12月8日（金）15時から「秋田ビューホテル」で開催すること、また会議終了後17時から各大学・高専の留学生を交えての交流パーティーを行うので、関係各位から留学生に参加するよう呼びかけて欲しいとの発言があった。

「資格外活動」(アルバイト)の許可申請方法と必要書類について

資格外活動の許可なしにアルバイトをした場合には、**不法就労活動**となり労働災害にあっても十分な救済が受けられないなど、人権上不幸な目に遭うばかりか、このような学生に対しては、入国管理局でも在留期間更新のための申請を受理しません。

留学生の場合、資格外活動の許可を受けた場合には、1週につき28時間以内(学校の長期休業期間中は1日につき8時間以内)で働くことができます。

申請方法・・・申請に必要な用紙に必要事項を記入し、大学担当窓口で副申書の申請をしてください。大学で取次申請をしている場合は大学で申請します。その他の場合は仙台入国管理局秋田出張所の窓口(9:00～16:00)に下記の書類を提出してください。

必要書類・・・

- 資格外活動申請書
- 当該申請に係る活動の内容を明らかにする書類(副申書)
- 旅券(提示)
- 外国人登録証明書等(提示)

禁止されているアルバイト

風俗営業(ホストやホステスのいるクラブ等)又は風俗営業関連(パチンコ店、麻雀店、ゲームセンター等)が営まれている営業所で働くことはできません。こうした業種の店では、たとえ皿洗いや掃除のような仕事でも働くことは禁止されています。

罰金の引き上げ

不法入国罪等に関する罰金額の上限が引き上げられました。

■不法入国の罪等 罰金30万円→300万円

- 偽変造旅券で入国したり密入国したりした場合
- 在留期間を超過して不法残留(オーバーステイ)した場合
- 留学生が風俗営業店等で専らホステスとして稼働した場合等

■無許可資格外活動の罪 罰金20万円→200万円

- 就学生が資格外活動許可を受けずに日雇いのアルバイトをした等

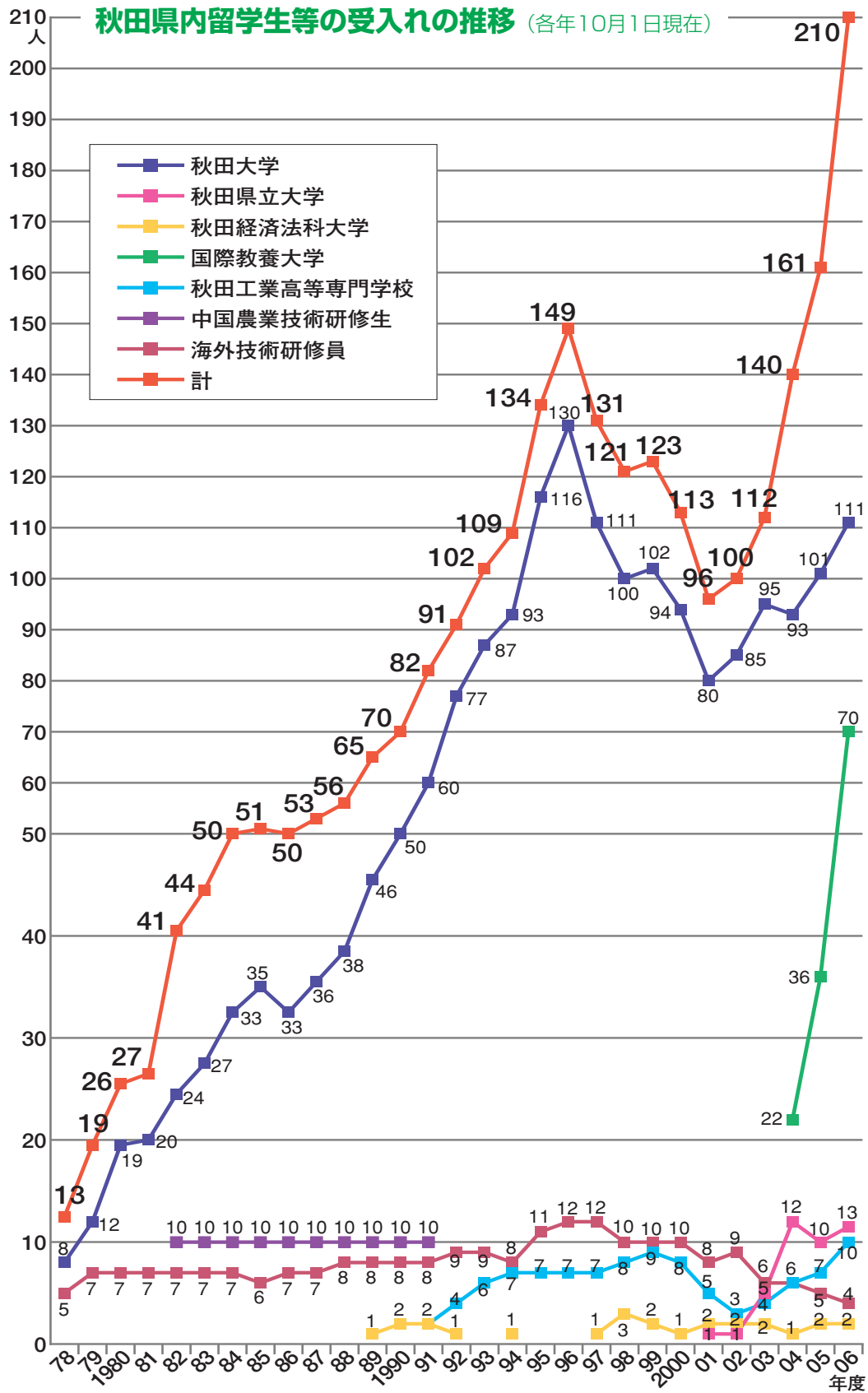
仙台入国管理局 秋田出張所

010-0976 秋田市八橋南2-10-16 秋田県JAビル7階

TEL: 018-895-5221

URL: <http://www.immi-moj.go.jp/soshiki/kikou/sendai.html> を
クリックすると略図がご覧になれます。

留学生関係資料



住居形態別留学生数 (平成18年10月1日現在)

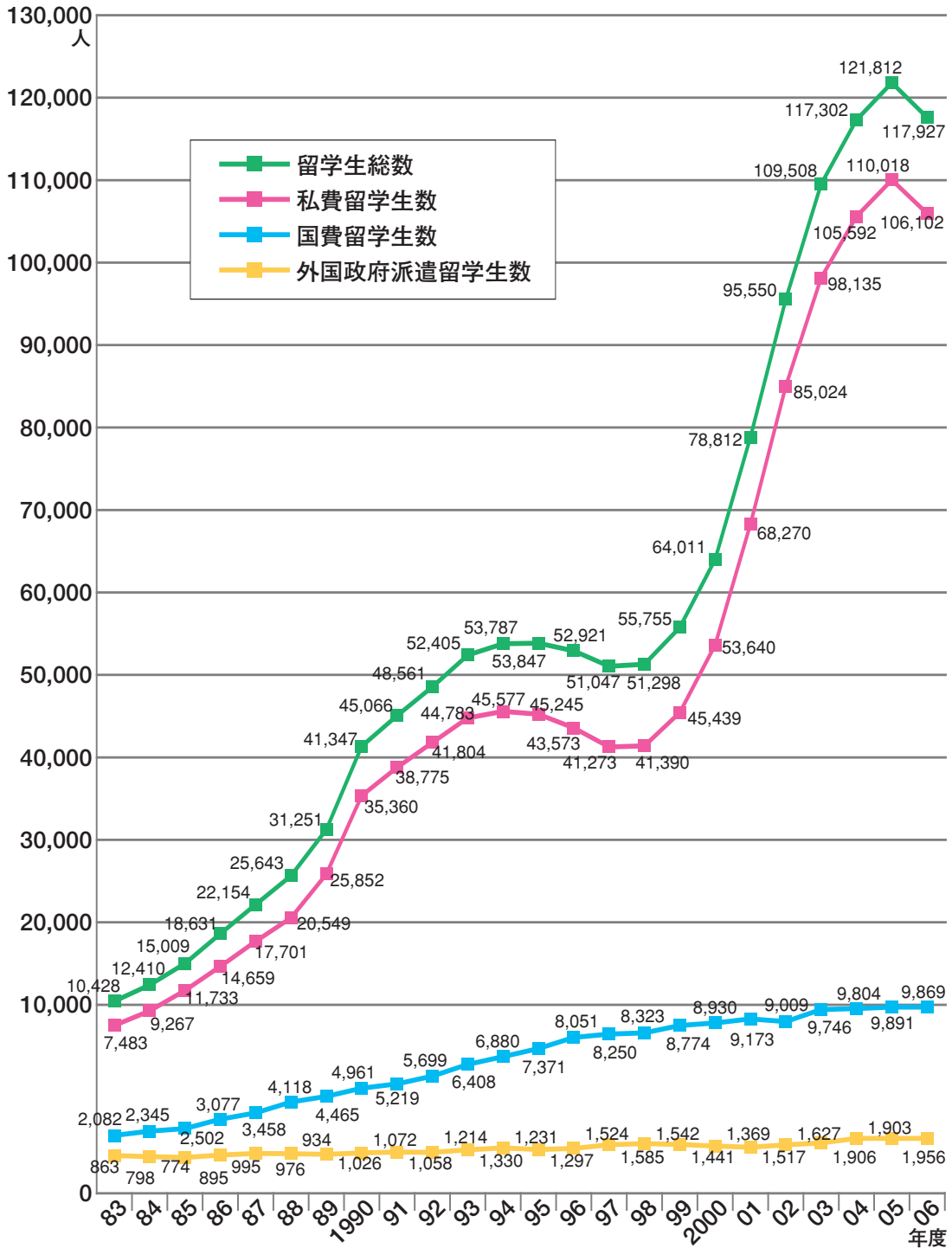
学校等別 住居別	秋田大学	秋田県立 大 学	秋田経済 法科大学	国際教養 大 学	秋田工業 高等専門 学 校	秋 田 県	合 計
留学生用宿舍	42 (23)						42 (23)
大学の職員宿舍							
大学等の学生寮			2 (1)	70 (41)	10 (1)		82 (43)
秋田県職員宿舍							
公営住宅	5 (1)						5 (1)
民間下宿・アパート	64 (27)	13 (5)				4 (1)	81 (33)
民間企業の社員寮							
ホームステイ							
そ の 他							
合 計	111 (51)	13 (5)	2 (1)	70 (41)	10 (1)	4 (1)	210 (100)

注：() 内は内数で女性を示す。

秋田県内留学生等の出身国・地域別在籍状況 (平成18年10月1日現在)

機関等名 地域・国名	秋田大学	秋田県立 大 学	秋田経済 法科大学	国際教養 大 学	秋田工業 高等専門 学 校	秋 田 県 (海外技術 研修員)	計	地域別 割 合
中 国	50	6		8		2	66	78.1%
韓 国	22	6	2	4			34	
マレーシア	23				5		28	
モンゴル	2			6	1		9	
台 湾	2			10			12	
香 港				4			4	
シンガポール				1			1	
ベトナム	1				2		3	
カンボジア					1		1	
マカオ				2			2	
ラオス					1		1	
パキスタン	1						1	
ミャンマー	2						2	
計	103	12	2	35	10	2	164	
中近東	1						1	0.5%
イラン	1						1	
アフリカ	1						1	1.0%
ガーナ	1						1	
南アフリカ	1						1	
オセアニア	2						2	1.0%
オーストラリア				1			1	
パプアニューギニア	1						1	
計	1	0	0	1	0	0	2	
北 米				18			18	9.0%
アメリカ								
カナダ				1			1	
計	0	0	0	19	0	0	19	
中南米						1	1	1.4%
アルゼンチン								
ペルー	1						1	
ウルグアイ		1					1	
計	1	1	0	0	0	1	3	
ヨーロッパ				5			5	9.0%
イギリス								
オーストリア				1			1	
スウェーデン				5			5	
ドイツ	2			2			4	
ノルウェー				2			2	
セルビア・モンテネグロ	1						1	
ハンガリー						1	1	
計	3	0	0	15	0	1	19	
合 計	111	13	2	70	10	4	210	100%

日本全体の留学生数の推移 (各年5月1日現在)



(注) 外国政府派遣留学生は、マレーシア、インドネシア、タイ、シンガポール、アラブ首長国連邦、クウェート、ウズベキスタン、ラオス、ベトナム、カンボジア、モンゴル、中国、ミャンマー、フィリピン、バングラデシュ及び大韓民国の各国政府派遣留学生である。

出身国（地域）別留学生数（平成18年5月1日現在）

中国・韓国・台湾からの留学生を合わせると全留学生に占める割合は80.1（前年度82.4）%となっている。

国(地域)名	留学生数		構成比		国(地域)名	留学生数		構成比	
中国	74,292人	(80,592)	63.0%	(66.2)	ドイツ	393人	(336)	0.3%	(0.3)
韓国	15,974人	(15,606)	13.5%	(12.8)	オーストラリア	354人	(300)	0.3%	(0.2)
台湾	4,211人	(4,134)	3.6%	(3.4)	ブラジル	342人	(338)	0.3%	(0.3)
マレーシア	2,156人	(2,114)	1.8%	(1.7)	ロシア	334人	(346)	0.3%	(0.3)
ベトナム	2,119人	(1,745)	1.8%	(1.4)	イギリス	333人	(326)	0.3%	(0.3)
アメリカ	1,790人	(1,646)	1.5%	(1.4)	カナダ	286人	(279)	0.2%	(0.2)
タイ	1,734人	(1,734)	1.5%	(1.4)	カンボジア	278人	(298)	0.2%	(0.2)
インドネシア	1,553人	(1,488)	1.3%	(1.2)	ラオス	266人	(266)	0.2%	(0.2)
バングラデシュ	1,456人	(1,331)	1.2%	(1.1)	エジプト	251人	(219)	0.2%	(0.2)
スリランカ	1,143人	(907)	1.0%	(0.7)	イラン	236人	(235)	0.2%	(0.2)
モンゴル	1,006人	(924)	0.9%	(0.8)	トルコ	171人	(164)	0.1%	(0.1)
ネパール	998人	(617)	0.8%	(0.5)	メキシコ	151人	(137)	0.1%	(0.1)
ミャンマー	736人	(651)	0.6%	(0.5)	ウズベキスタン	139人	(139)	0.1%	(0.1)
フィリピン	542人	(544)	0.5%	(0.4)	スウェーデン	137人	(116)	0.1%	(0.1)
インド	525人	(410)	0.4%	(0.3)	その他	3,604人	(3,490)	3.1%	(2.9)
フランス	417人	(380)	0.4%	(0.3)	計	117,927人	(121,812)	100.0%	(100.0)

() 内は平成17年5月1日現在の数

地方別・都道府県別留学生数（平成18年5月1日現在）

(人)

地方名	留学生数	都道府県	留学生数		地方名	留学生数	都道府県	留学生数			
北海道	1,800 [1.5%]	北海道	1,800	(1,903)	近畿	20,832 [17.7%] (21,611) ([17.7%])	三重	792	(842)		
	(1,903) ([1.6%])						滋賀	379	(366)		
東北	3,287 [2.8%] (3,382) ([2.8%])	青森	358	(401)	中国	4,681 [4.0%] (4,881) ([4.0%])	京都	4,732	(4,890)		
		岩手	373	(330)			大阪	9,986	(10,496)		
		宮城	1,935	(2,018)			兵庫	3,721	(3,967)		
		秋田	161	(136)			奈良	971	(869)		
		山形	206	(208)			和歌山	251	(181)		
関東	59,864 [50.8%] (62,263) ([51.1%])	福島	254	(289)	四国	1,326 [1.1%] (1,439) ([1.2%])	鳥取	210	(211)		
		茨城	2,636	(2,828)			島根	183	(171)		
		栃木	1,307	(1,506)			岡山	1,588	(1,663)		
		群馬	1,532	(1,421)			広島	1,950	(2,001)		
		埼玉	5,377	(5,932)			山口	750	(835)		
		千葉	5,599	(5,832)			九州	12,298 [10.4%] (12,096) ([9.9%])	徳島	312	(345)
		東京	39,520	(40,396)					香川	389	(339)
神奈川	3,893	(4,348)	愛媛	437	(542)						
中部	13,839 [11.7%] (14,237) ([11.7%])	新潟	1,374	(1,452)	計	117,927 [100.0%] (121,812 [100.0%])	高知	188	(213)		
		富山	503	(513)			福岡	5,820	(5,731)		
		石川	1,296	(1,271)			佐賀	364	(316)		
		福井	290	(277)			長崎	1,236	(1,238)		
		山梨	686	(695)			熊本	665	(627)		
		長野	769	(823)			大分	3,060	(2,867)		
		岐阜	1,534	(1,609)			宮崎	155	(218)		
		静岡	1,482	(1,583)			鹿児島	484	(549)		
		愛知	5,905	(6,014)			沖縄	514	(550)		

() 内は平成17年5月1日現在の数

秋田地域留学生等交流推進会議要項

(設置及び目的)

第1 秋田地域における留学生等の受入れの促進及び交流活動の推進を図るため、秋田地域留学生等交流推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

(事業)

第2 推進会議は、第1に掲げる目的を達成するため、秋田地域における留学生等の受入れの促進及び交流活動の推進に関する重要事項について協議する。

(委員)

第3 推進会議は、次に掲げる者をもって組織する。
一 秋田地域の関係大学等の長
二 秋田地域の国・地方公共団体の関係機関、経済団体、国際交流関係団体の長又は代表者 各1名
三 学識経験者 若干名
2 委員は、議長が委嘱する。

(役員及び役員の職務)

第4 推進会議に議長及び副議長を置く。
2 議長は、秋田大学長をもって充て、副議長は、推進会議の議を経て議長が委嘱する。
3 議長は、推進会議を招集する。
4 副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときは、議長の職務を代行する。

(顧問)

第5 推進会議に顧問を若干名置くことができる。

2 顧問は、推進会議の議を経て議長が委嘱する。

3 顧問は、推進会議の運営及び事業に関し、必要に応じて助言する。

(委員以外の者の出席)

第6 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

(運営委員会)

第7 推進会議の円滑な運営を図るため、運営委員会を置く。
2 運営委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第8 推進会議の事務は、秋田大学社会貢献・国際交流室において行う。

(雑則)

第9 この要項に定めるもののほか、推進会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成元年10月17日から実施する。

附 則

この要項は、平成14年9月26日から実施する。

附 則

この要項は、平成17年2月28日から実施する。

秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会要項

第1 秋田地域留学生等交流推進会議要項（以下「要項」という。）第7第2項の規定に基づき推進会議運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関する事項を次のとおり定める。

第2 運営委員会の委員は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 要項第3第1項第1号の各大学等から選出された者 各1名
- 二 要項第3第1項第2号の機関等から選出された者 各1名
- 三 要項第3第1項第3号の学識経験者から 若干名
- 四 その他推進会議が必要と認めた者 若干名

2 委員は、推進会議議長が委嘱する。

第3 運営委員会は、留学生等の交流推進に関し必要

な事項について審議する。

第4 運営委員会に運営委員長を置く。

2 委員長は、当分の間、秋田大学副学長（社会貢献・国際交流担当）をもって充てる。

3 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

第5 運営委員会の事務は、秋田大学社会貢献・国際交流室において行う。

附 則

この要項は、平成元年10月17日から実施する。

附 則

この要項は、平成11年10月27日から実施する。

附 則

この要項は、平成14年9月26日から実施する。

附 則

この要項は、平成17年2月28日から実施する。

秋田地域留学生等交流推進会議構成員名簿

平成19年2月1日現在

区分	所属	職名	氏名
国・地方公共団体	仙台入国管理局秋田出張所	所長	中 幡 正 男
	秋田県	知事	寺 田 典 城
	秋田県市長会	会長	佐 竹 敬 久
	秋田県町村会	会長	齋 藤 正 寧
経済団体	秋田市	市長	佐 竹 敬 久
	(社) 秋田県経営者協会	会長	新 開 卓
	秋田県商工会議所連合会	会長	渡 邊 靖 彦
	秋田県中小企業団体中央会	会長	米 澤 實
	秋田県商工会連合会	会長	村 岡 淑 郎
	秋田県農業協同組合中央会	会長	澁 川 喜 一
民間団体	(社) 秋田青年会議所	理事長	進 藤 文 仁
	秋田ロータリークラブ	会員	江 畠 清 治
学識経験者	秋田国際交流団体連絡会	会長	佐々木 正 光
	秋田魁新報社	代表取締役社長	佐 藤 暢 男
大学・高専	秋田経済法科大学	学長	小 泉 健
	秋田栄養短期大学	学長	小 泉 健
	聖霊女子短期大学	学長	平 垣 ヨシ子
	聖園学園短期大学	学長	青 木 光 子
	秋田県立大学	学長	小 林 俊 一
	秋田県立大学短期大学部	学長	小 林 俊 一
	国際教養大学	学長	中 嶋 嶺 雄
	秋田工業高等専門学校	校長	島 田 昌 彦
	秋田看護福祉大学	学長	佐々木 英 忠
	秋田桂城短期大学	学長	佐々木 英 忠
	秋田大学	学長	三 浦 亮

秋田地域留学生等交流推進会議運営委員会委員名簿

平成18年4月1日現在

区分	所属	職名	氏名
国・地方公共団体	仙台入国管理局秋田出張所	所長	中 幡 正 男
	秋田県学術国際部	学術国際政策課長	和 泉 勤
	秋田県市長会	事務局長	大 山 幹 弥
	秋田県町村会	事務局長	関 正 正
	秋田市企画調整部	企画調整課長	高 橋 善 健
経済団体	(社) 秋田県経営者協会	専務理事	高 橋 庄四郎
	秋田県商工会議所連合会	常任幹事	青 山 鈞
	秋田県中小企業団体中央会	事務局長	斉 藤 信 郷
	秋田県商工会連合会	専務理事	齋 藤 玉 宏
	秋田県農業協同組合中央会	常務理事	佐 藤 実
	(社) 秋田青年会議所	専務理事	小 畑 宏 介
民間団体	秋田ロータリークラブ	会員	江 畠 清 彦
	秋田国際交流団体連絡会	事務局長	石 塚 則 夫
学識経験者	秋田魁新報社	常務取締役	地 主 徹 弥
大学・高専	秋田経済法科大学	学生部長	遠 藤 純 男
	秋田栄養短期大学	教学部長	海老川 寿美夫
	聖霊女子短期大学	学生部長	三 森 一 司
	聖園学園短期大学	学生部長	腰 山 豊
	秋田県立大学	学生部長	森 宏 一
	秋田県立大学短期大学部	学生部長	津 田 涉
	国際教養大学	学生部長	阿 部 祐 子
	秋田工業高等専門学校	教務主事	成 田 文 雄
	秋田看護福祉大学(秋田桂城短期大学)	学生委員長	渡 部 誠
	秋田大学	副学長	妹 尾 春 樹

■■■ 推進会議へのご意見や情報提供について ■■■

本推進会議は、秋田県内における留学生の受け入れや、交流活動を含めた国際交流の推進を図るために組織されています。その活動状況は、毎年発行する本誌「あきた留学生交流」を通して関係の皆さまにお伝えしております。お読みいただいてのご感想や本推進会議に対するご意見がございましたら事務局までどしどしお寄せください。

また、留学生をはじめとする外国人の皆さんやそのご家族の方たちは、地域の皆さまからのいろいろな情報の提供を望んでいます。国際交流に関するイベントの実施、その他日常生活に関するささやかな情報でも結構ですので、事務局までお寄せくださるよう協力願います。

■■■ 編 集 後 記 ■■■

私ども秋田地域留学生等交流推進会議では本年度初めて「外国人留学生と地域住民による街おこし企画ワークショップ」（財団法人中島国際交流財団助成事業）を実施しました。会員校の大学・高専から参加した留学生、日本人学生、大仙市と仙北市の市民、そして協力教員からは「参加してよかった、来年もぜひ開催してほしい」とのことばをたくさんいただきました。しかしながら、裏を返せば大学の垣根を越えての交流事業と、しかも地域住民とのディスカッションまで一気にやってしまうこのウルトラC的な事業は、実は以前から渴望されていたのではないかと思ひ至ったところです。

年に一度の本会議席上においても満場一致で継続開催を決定しましたので、留学生数を増やすことと併行しながら、留学生生活を豊かにするためのおいしいメニューの工夫と追加を研究して参りたいと考えております。





街おこし企画ワークショップ(2005年9月30日~10月1日)2日目は、
たつこ姫の立像でも知られる田沢湖(水深日本一、423M)で
遊覧を楽しんだ留学生

あきた留学生交流 第19号

(2007.3発行)

編集・発行 秋田地域留学生等交流推進会議事務局
(秋田大学社会貢献・国際交流室)

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号

TEL (018) 889-2856 FAX (018) 889-3012

E-mail syakoku@jimu.akita-u.ac.jp

